

医療的ケア児基礎調査結果 (概要)

※回答比率は、各設問の回答者数（N）を母数とした百分率で示し、小数点第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100.0%にならない場合があります。

基礎調査の実施結果

(実施期間 令和4年11月29日～令和4年12月28日)

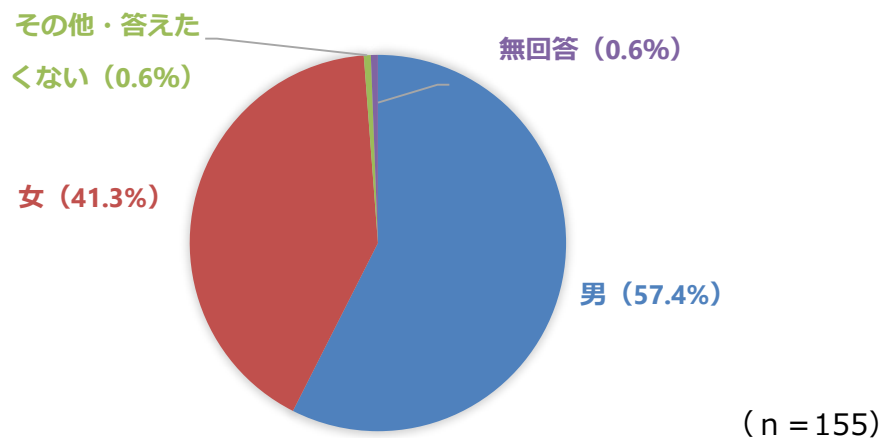
調査票	種別	発送数 (前回発送数)	有効回収数 (前回有効回収数)	有効回収率 (前回有効回収率)
障がい者（児）基礎調査票（本人用）	A 1	11,578部 (11,633部)	4,298部 (4,286部)	37.1% (36.8%)
障がい者（児）基礎調査票（家族用）	A 2	11,578部 (11,633部)	3,367部 (3,285部)	29.1% (28.3%)
障がい福祉サービス事業者等調査票	B	4,072部 (3,310部)	1,994部 (1,960部)	49.0% (59.2%)
大阪市発達障がい者支援センター・ 発達障がい児専門療育機関利用者アンケート	C	464部 (422部)	212部 (210部)	45.7% (49.8%)
障がい者（児）基礎調査票（施設入所者用）	D 1	1,248部 (1,456部)	734部 (1,044部)	58.8% (71.8%)
障がい者（児）基礎調査票（施設管理者用）	D 2	188部 (182部)	116部 (109部)	61.7% (59.9%)
特定医療費（指定難病）助成事業対象者 基礎調査票	E	857部 (748部)	465部 (329部)	54.3% (44.0%)
小児慢性特定疾病医療支援事業対象者 基礎調査票	F	693部 (752部)	345部 (338部)	49.8% (44.9%)
医療的ケア児基礎調査票	G	302部 (336部)	155部 (144部)	51.3% (42.9%)
合 計		30,980部 (30,472部)	11,686部 (11,705部)	37.7% (38.4%)

※前回の合計欄の回収率については、高次脳機能障がいに関するアンケートを含む

結果概要 1 基本情報 (1)

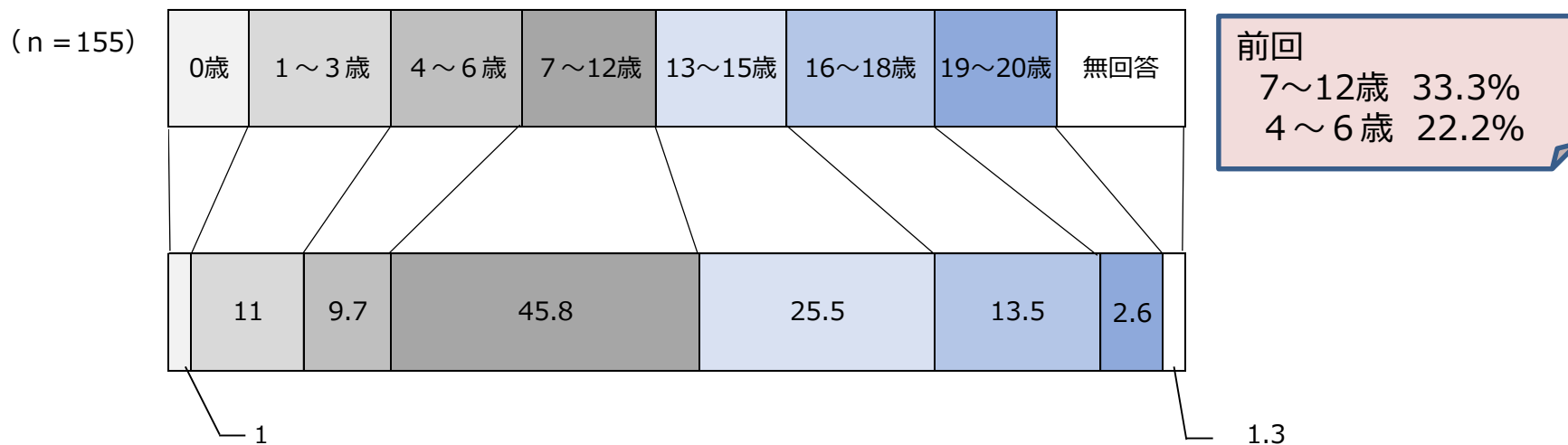
問2 性別

- 「男性」(57.4%)、「女性」(41.3%) となっている。



問3 年齢

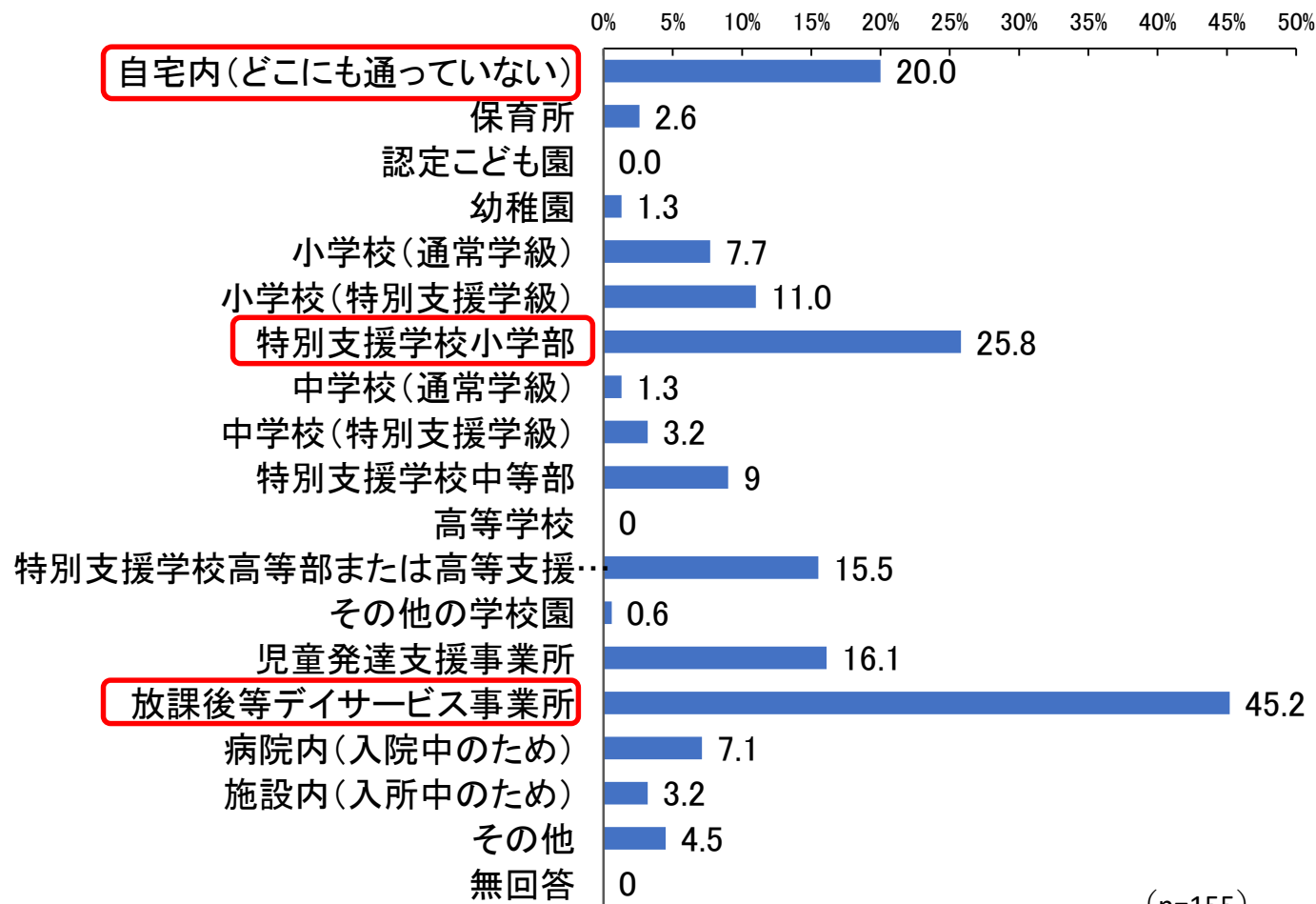
- 「7～12歳」(45.8%) と多く、次いで「13～15歳」(25.5%) となっている。



結果概要 1 基本情報 (2)

問4② 平日の日中の時間帯を過ごしている場所

- 「放課後等デイサービス」 (45.2%) が最も多く、次いで「特別支援学校小学部」 (25.8%) 、「自宅内 (どこにも通っていない)」 (20.0%) となっている。



前回

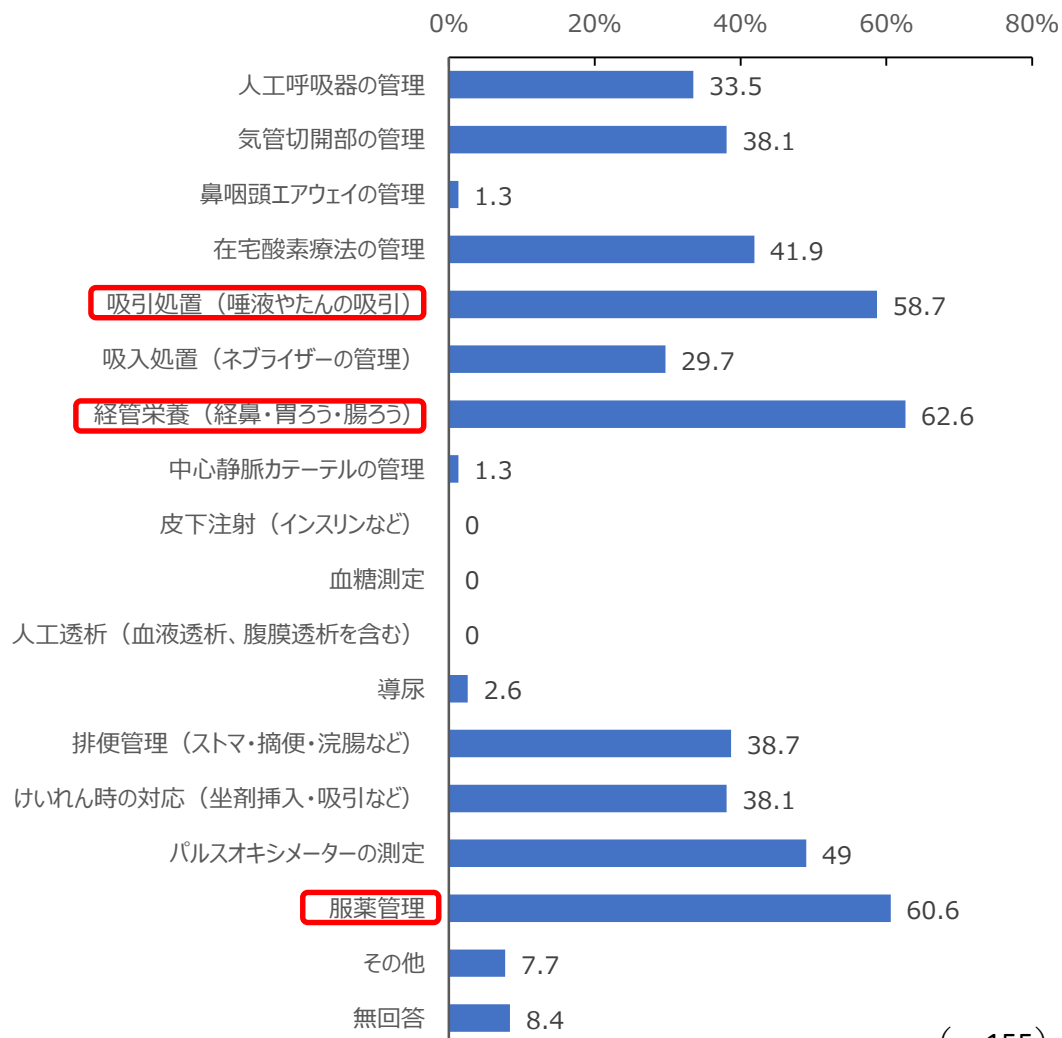
放課後等デイサービス 43.1%
児童発達支援 24.3%
自宅内 22.2%

(n=155)

結果概要 1 基本情報 (3)

問7 必要とする医療的ケア

- 「経管栄養（経鼻・胃ろう・腸ろう）」（62.6%）が最も多く、次いで「服薬管理」（60.6%）、「吸引処置（唾液やたんの吸引）」（58.7%）となっている。



前回

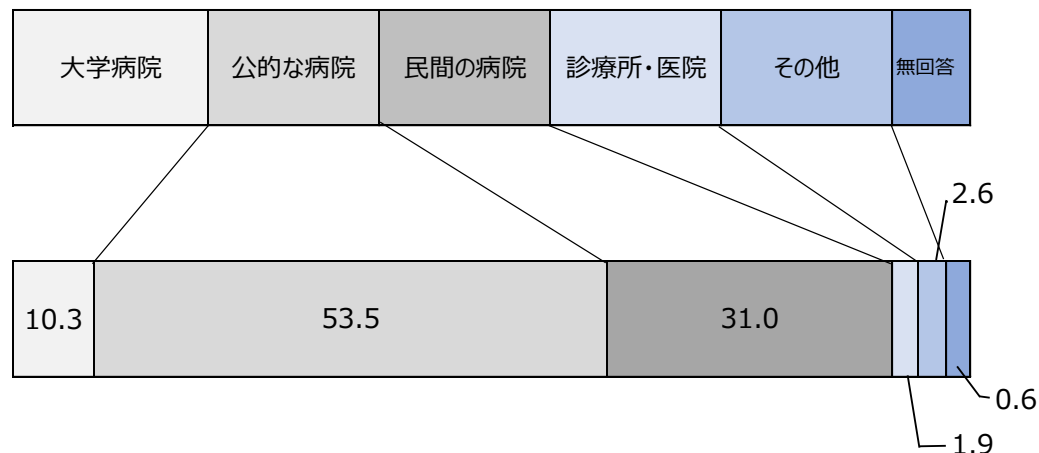
吸引処置 61.8%
服薬管理 59.7%
経管栄養 58.3%
在宅酸素 34.0%
気管切開 31.3%

(n=155)

結果概要 2 医療の状況 (1)

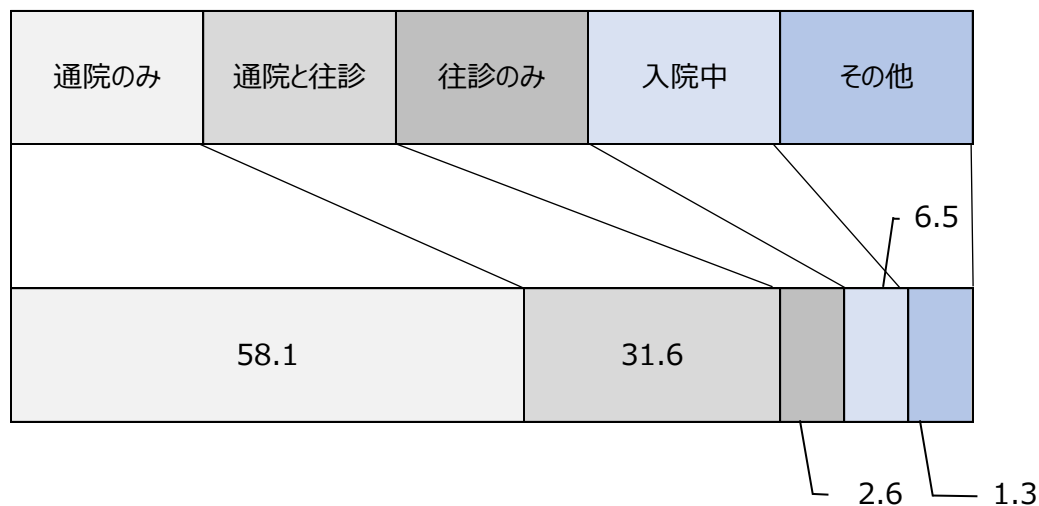
問10 現在、主にかかっている医療機関

- 「公的な病院」(53.5%) と答えたものが5割を超えている。



問11 現在の受診状況

- 「通院中」(58.1%) と答えたものが6割弱となっている。

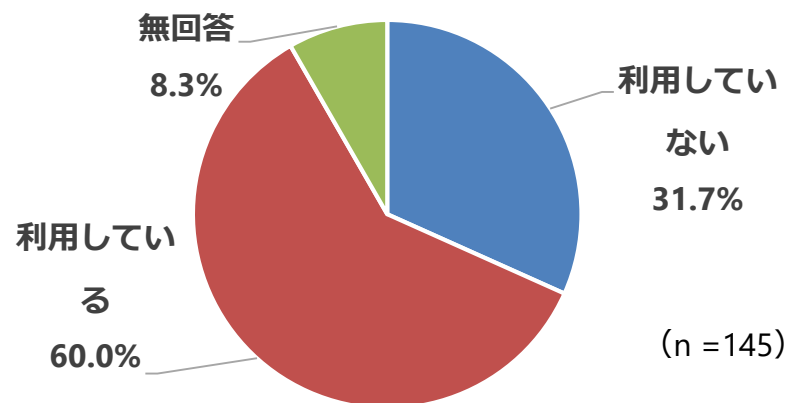


前回
通院のみ 66.0%
通院と往診 25.7%

結果概要 2 医療の状況 (2)

問14① 現在の訪問看護の利用状況

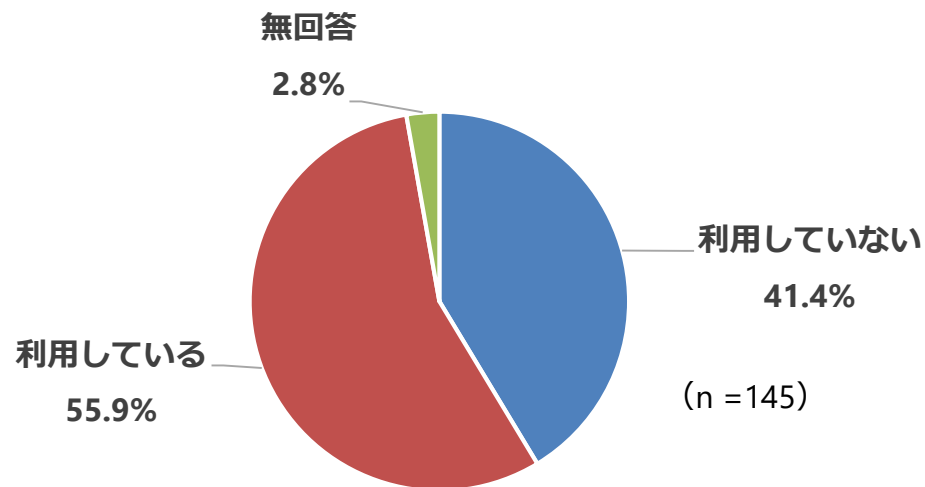
- 「利用している」(60.0%)と答えたものが6割となっている。



前回
利用している 49.6%
利用していない 40.9%

問15① 現在の訪問リハビリテーションの利用状況

- 「利用している」(55.9%)と答えたものが5割以上となっている。

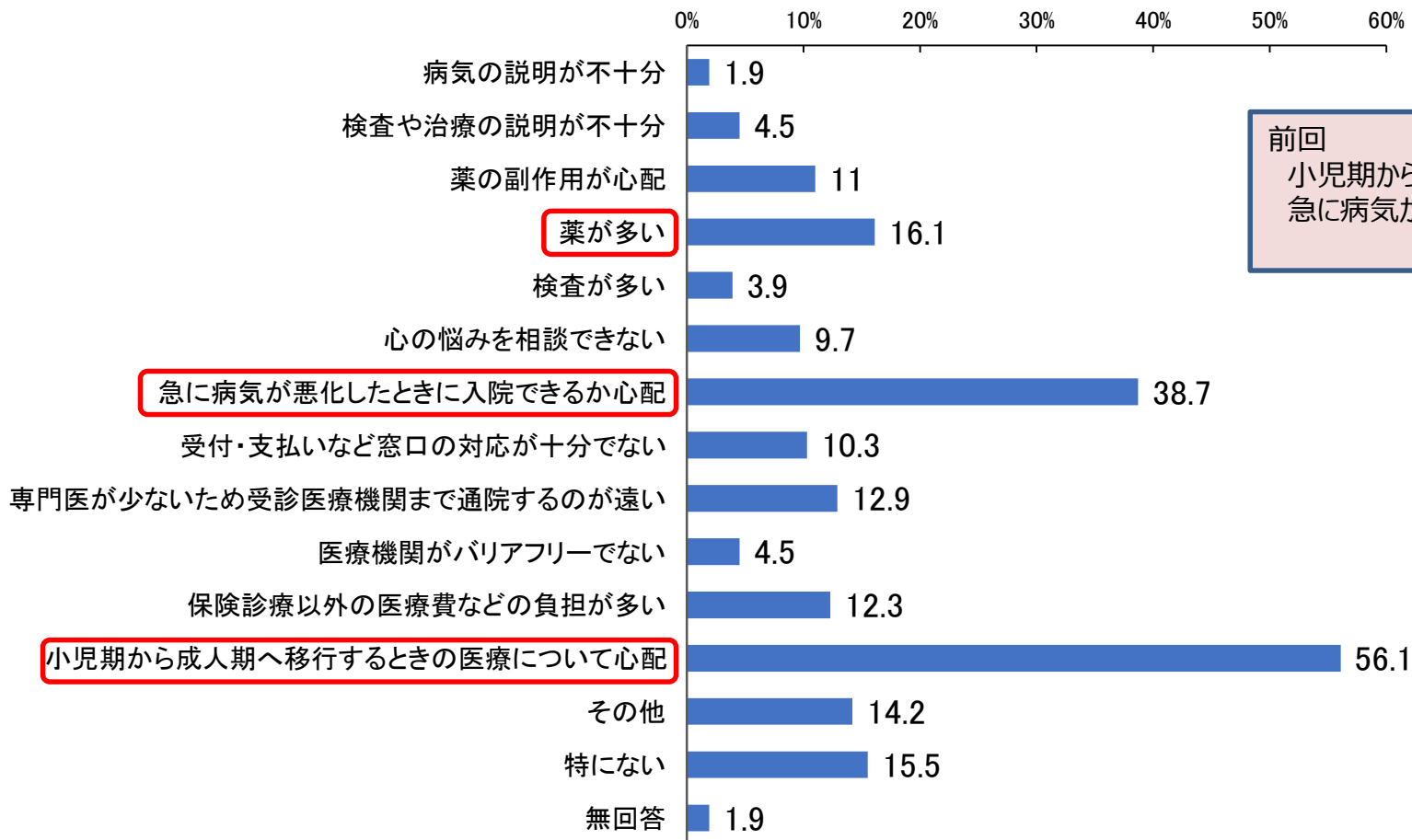


前回
利用している 49.6%
利用していない 44.5%

結果概要 2 医療の状況 (3)

問16 医療に関して困っていること

- 「小児期から成人期へ移行するときの医療について心配」(56.1%) が最も多く、次いで「急に病気が悪化したときに入院できるか心配」(38.7%) となっている。



前回

小児期から成人期へ移行 45.8%

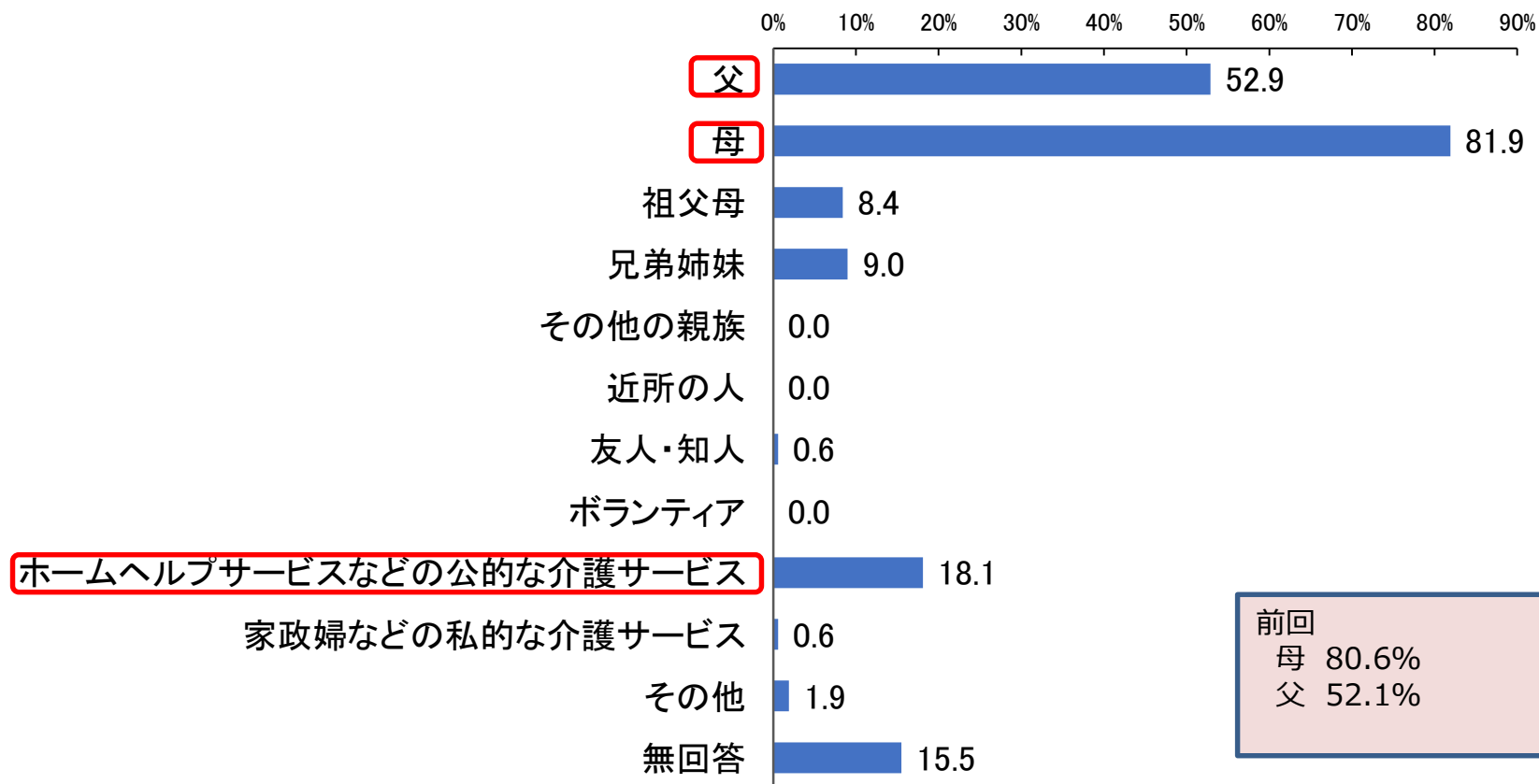
急に病気が悪化したときの入院 25%

(n=155)

結果概要 3 自宅での医療的ケアの状況（1）

問18① 自宅で医療的ケアをしている方

- 「母」（81.9%）で最も多く、次いで「父」（52.9%）となっている。



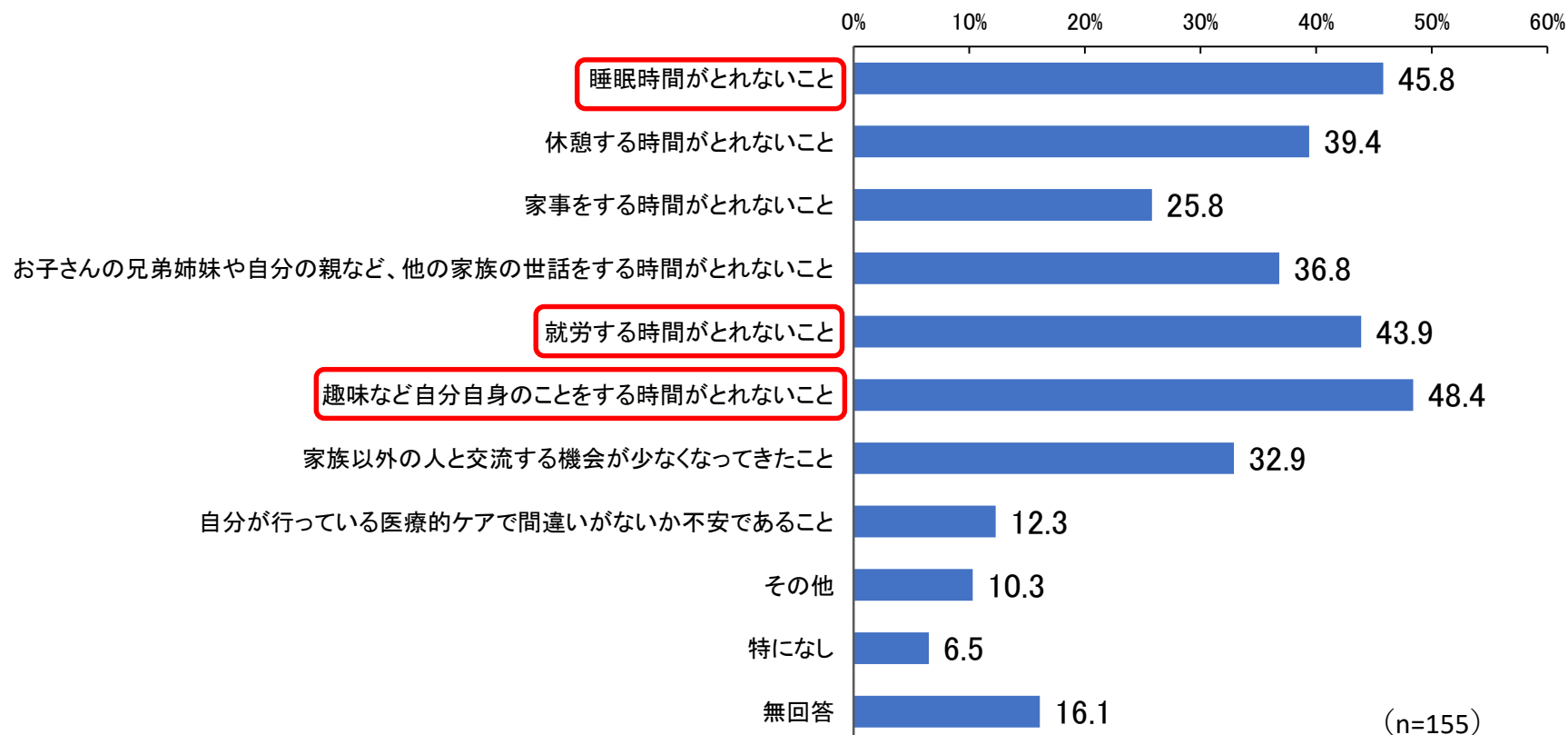
前回
母 80.6%
父 52.1%

(n=155)

結果概要 3 自宅での医療的ケアの状況（2）

問21 医療的ケアをしている方の負担を感じていること

- 「趣味など自分自身のことをする時間がとれないこと」（48.4%）が最も多く、次いで、「睡眠時間がとれないこと」（45.8%）、「就労する時間がとれないこと」（43.9%）となっている。



前回

睡眠時間がとれないこと 46.5%

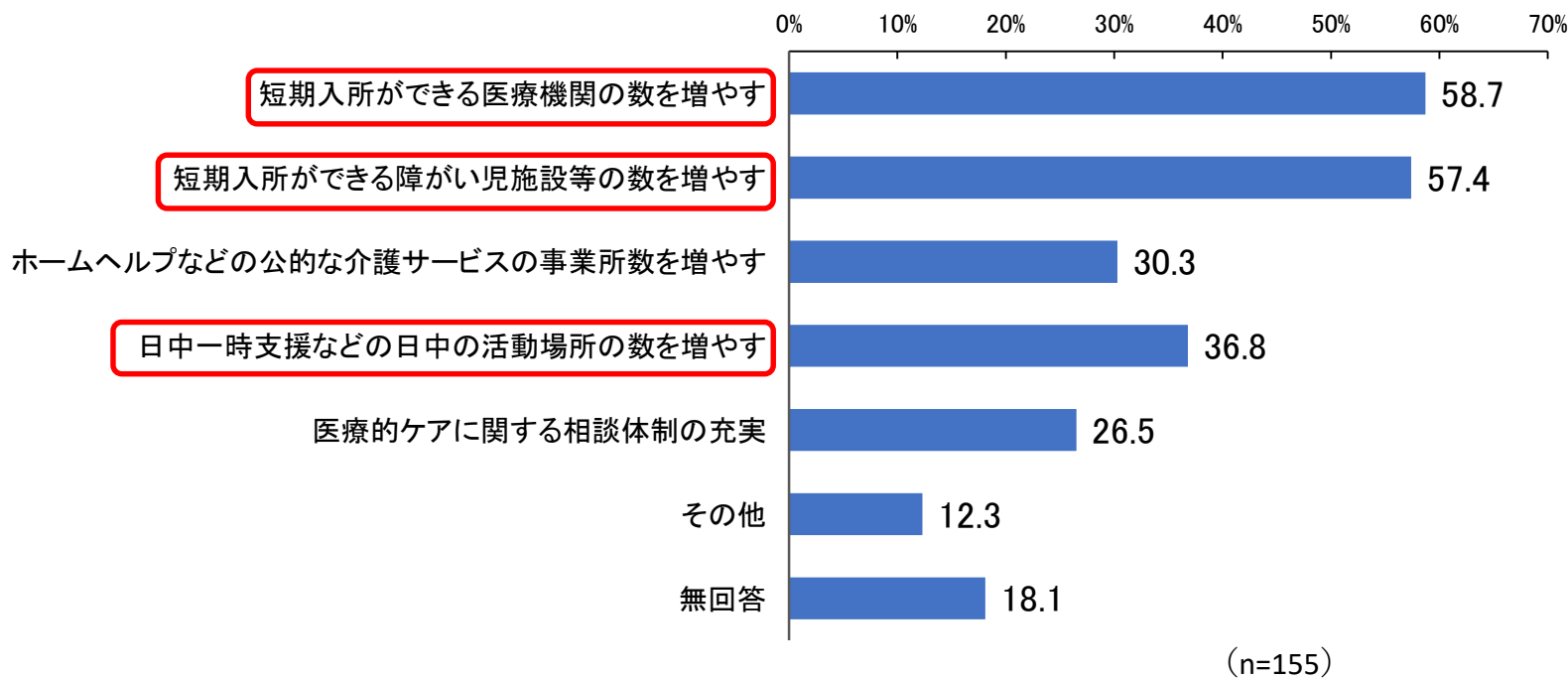
趣味などをする時間がとれない 41.7%

就労する時間がとれない 39.6%

結果概要 3 自宅での医療的ケアの状況 (3)

問22 医療的ケアにかかる介護負担を軽減するため、必要だと思うこと

- 「短期入所ができる医療機関の数を増やす」(58.7%)が最も多く、次いで「短期入所ができる障がい児施設等の数を増やす」(57.4%)、「日中一時支援などの日中の活動場所の数を増やす」(36.8%)となっている。



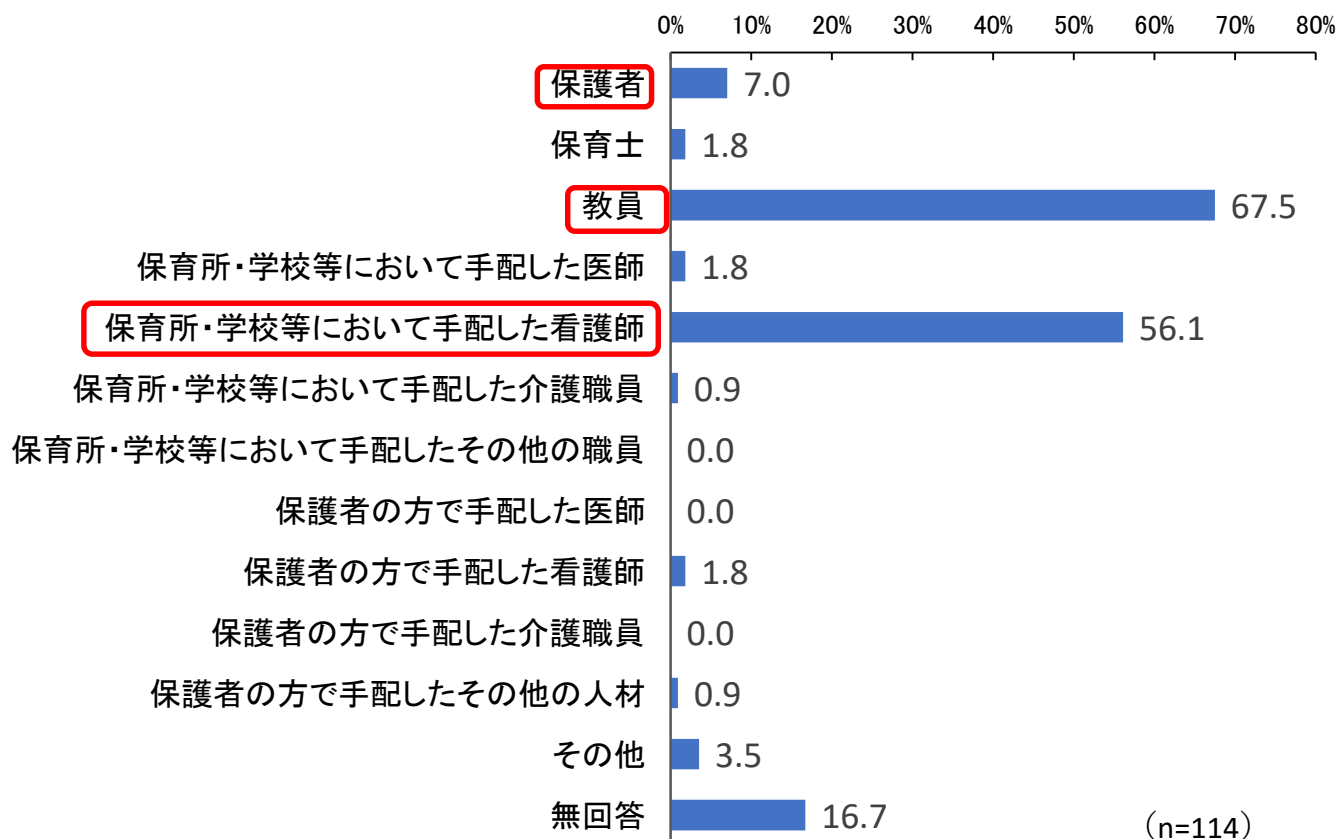
前回

短期入所ができる医療機関の充実 57.6%
短期入所ができる障がい児施設の充実 48.6%
ホームヘルプサービスなどの公的な介護サービスの充実 37.5%

結果概要 4 保育所・学校等での医療的ケアの状況（1）

問23① 保育所・学校等において、医療的ケアを行っている方

- 「教員」（67.5%）が最も多く、次いで「保育所・学校等において手配した看護師」（56.1%）となっている。



(n=114)

前回

教員 55.7%

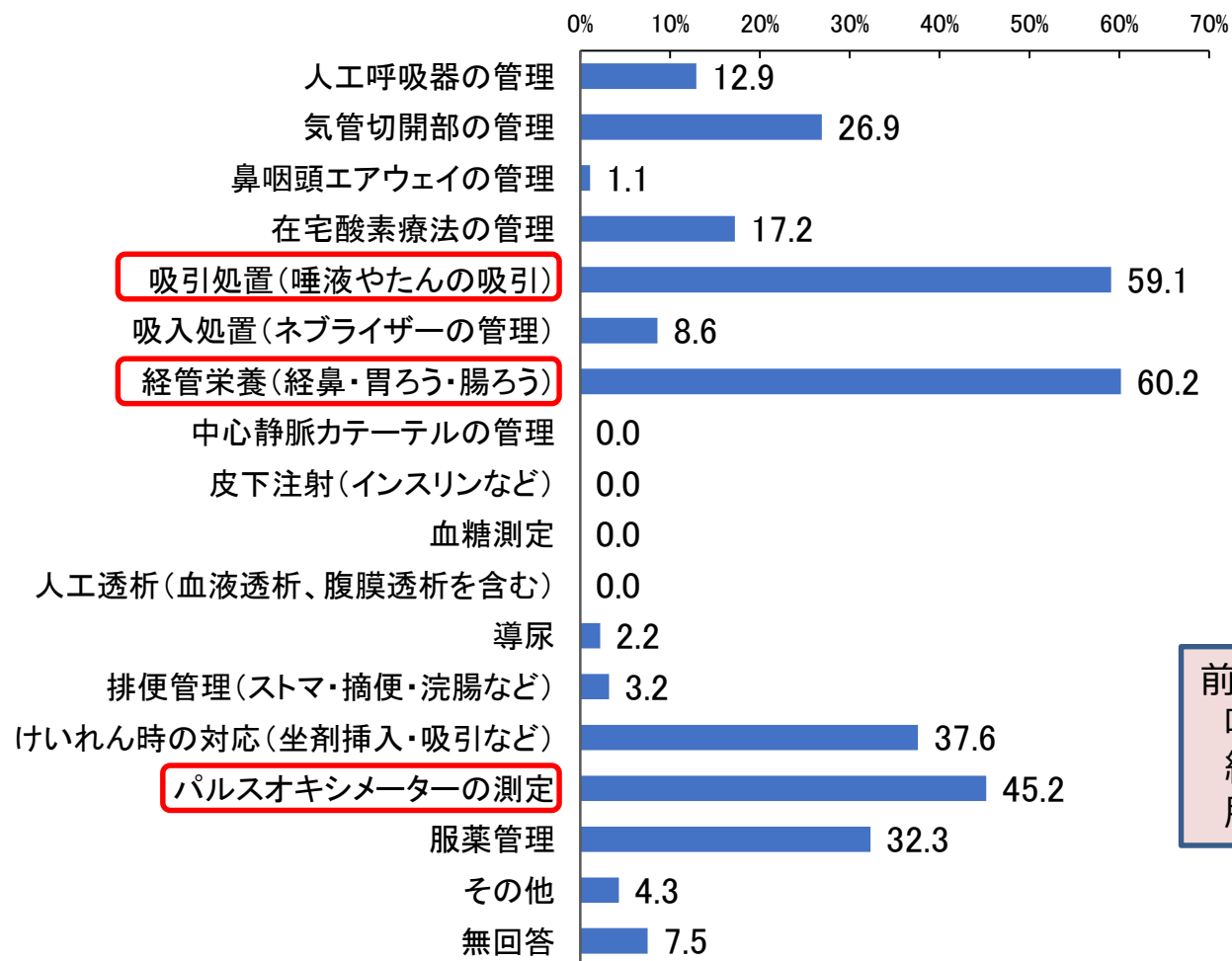
手配した看護師 47.2%

保護者 18.9%

結果概要 4 保育所・学校等での医療的ケアの状況（2）

問23② 保育所・学校等において、行われている医療的ケア

- 「経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう)」(60.2%) が最も多く、次いで「吸引処置(唾液やたんの吸引)」(59.1%)、「パルスオキシメーターの測定」(45.2%) となっている。



前回

吸引処置 55.8%

経管栄養 53.2%

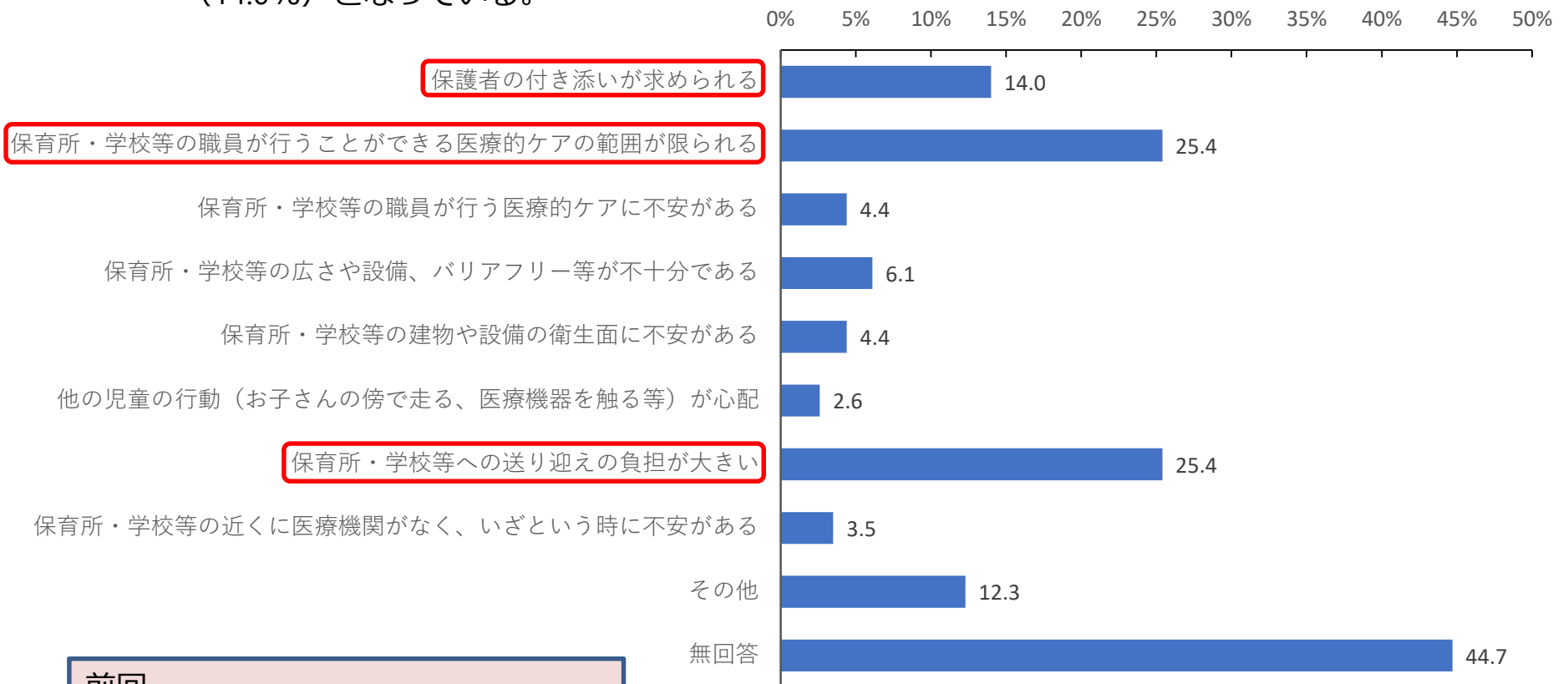
服薬管理 37.7%

(n=93)

結果概要 4 保育所・学校等での医療的ケアの状況（3）

問23③ 保育所・学校等における医療的ケアに関して困っていること、心配なこと

- 「保育所・学校等の職員が行うことができる医療的ケアの範囲に限られる」（25.4%）と「保育所・学校等への送り迎えの負担が大きい」（25.4%）が最も多く、次いで「保護者の付き添いが求められる」（14.0%）となっている。



(n=114)

前回

医療的ケアの範囲に限られる 26.4%

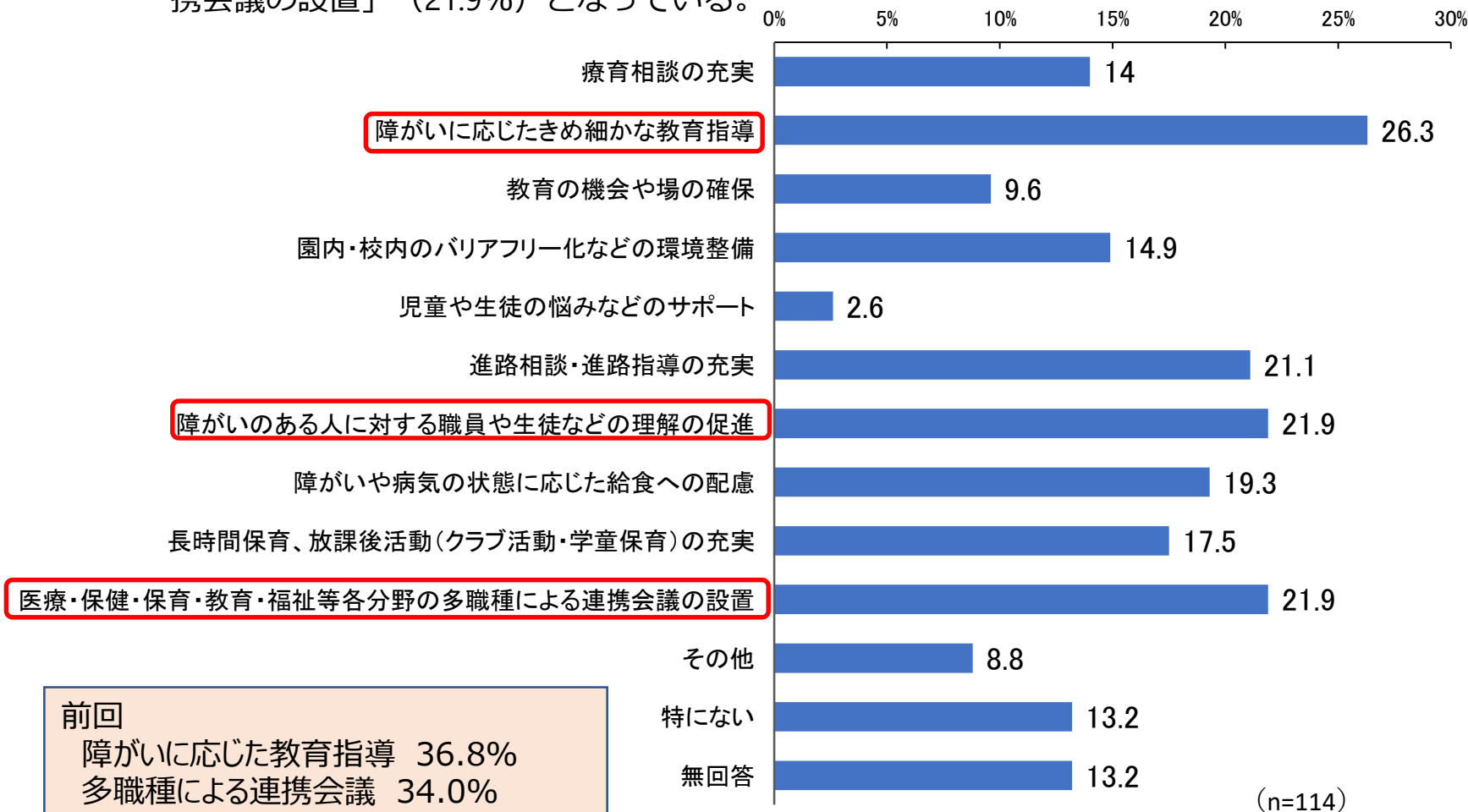
保護者の付き添い 20.8%

送り迎えの負担 20.8%

結果概要 4 保育所・学校等での医療的ケアの状況（4）

問23④ 医療的ケア以外に、保育所・学校等において充実してほしいこと

- 「障がいに応じたきめ細かな教育指導」（26.3%）が最も多く、次いで「障がいのある人に対する職員や生徒などの理解の促進」（21.9%）、「医療・保健・保育・教育・福祉等各分野の多職種による連携会議の設置」（21.9%）となっている。



前回

障がいに応じた教育指導 36.8%

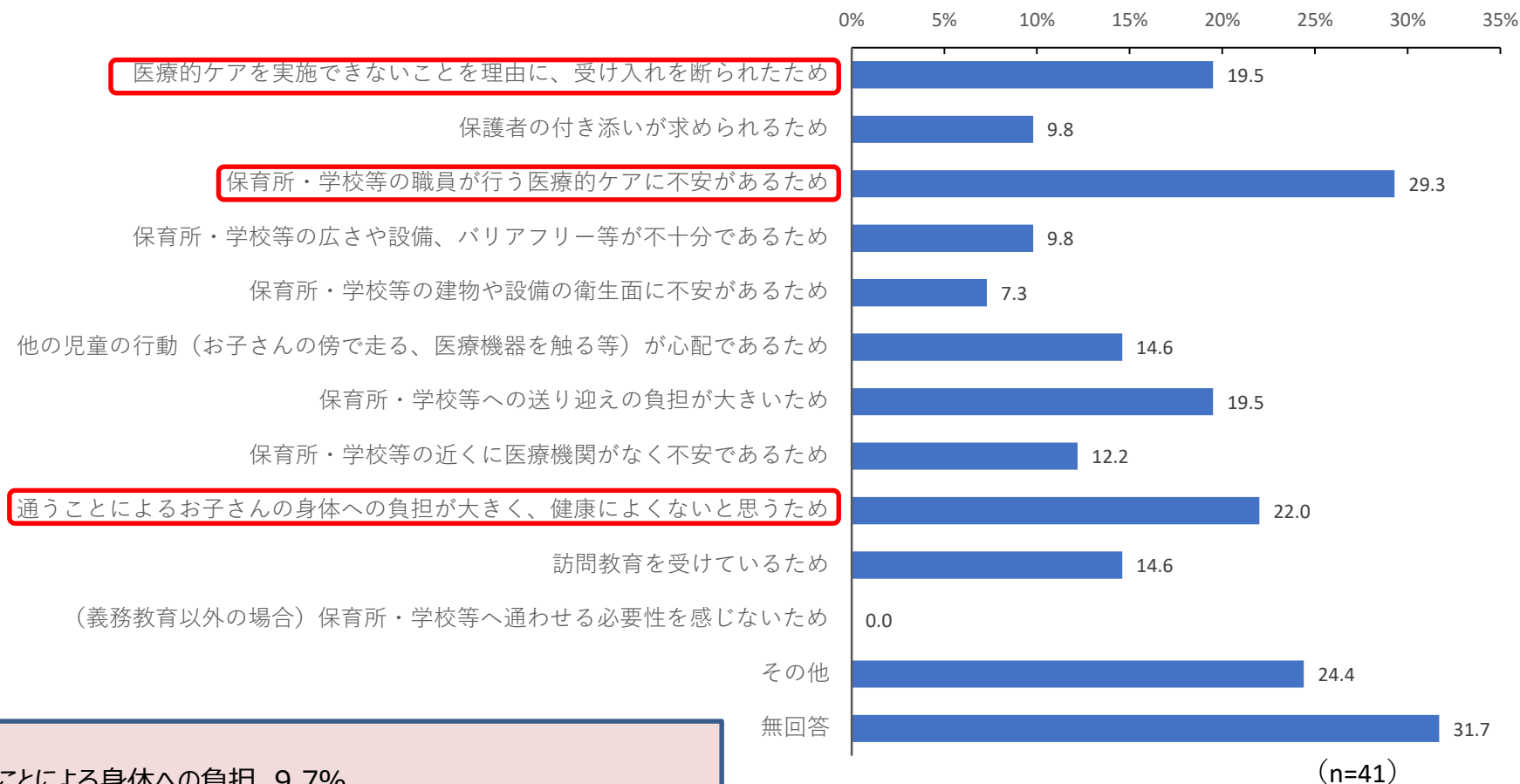
多職種による連携会議 34.0%

職員や生徒などの理解の促進 29.2%

結果概要 4 保育所・学校等での医療的ケアの状況（5）

問24① 保育所・学校等に通われていない理由

- 「保育所・学校等の職員が行う医療的ケアに不安があるため」（29.3%）が最も多く、次いで「通うことによるお子さんの身体への負担が大きく、健康によくないと思うため」（22.0%）、「医療的ケアを実施できないことを理由に、受け入れを断られたため」（19.5%）となっている。



前回

通うことによる身体への負担 9.7%

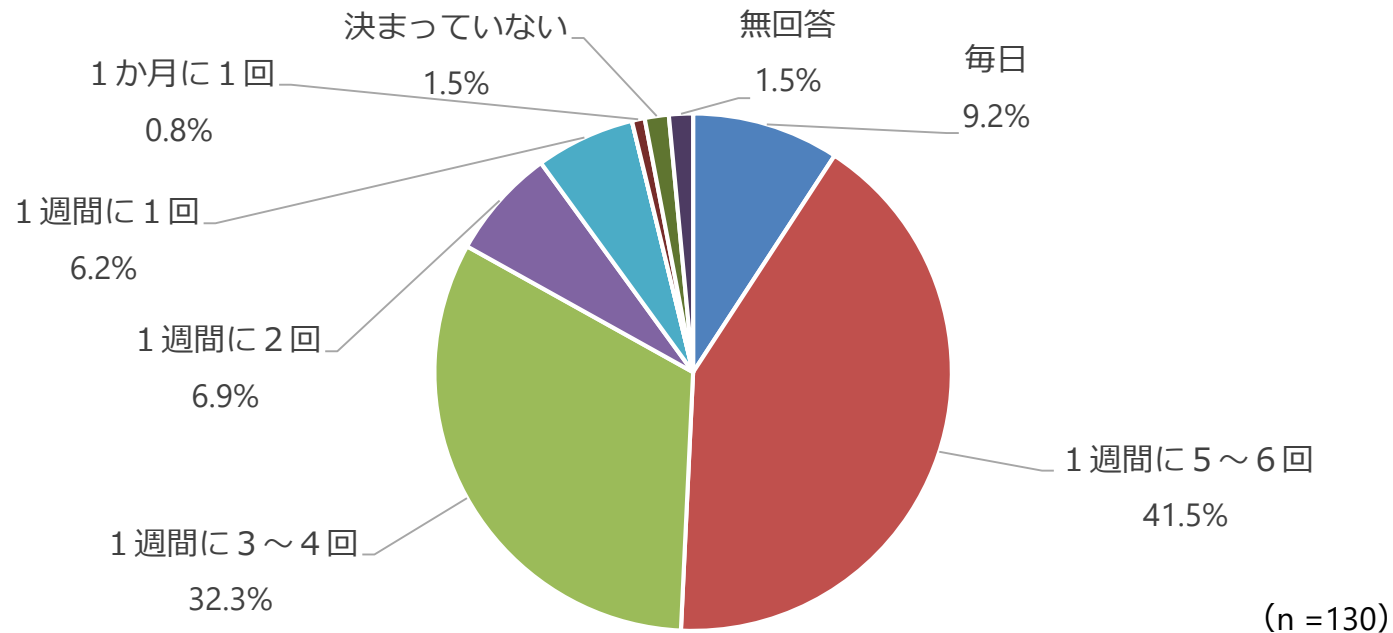
保護者の付き添いが求められる 8.7%

医療的ケアを実施できないことを理由に受け入れを断られる 7.8%

結果概要 5 福祉サービス事業所での医療的ケアの状況（1）

問25 福祉サービス事業所等の利用頻度

- 「1週間に5～6回」（41.5%）が多く、次いで「1週間に3～4回」（32.3%）となっている。



前回

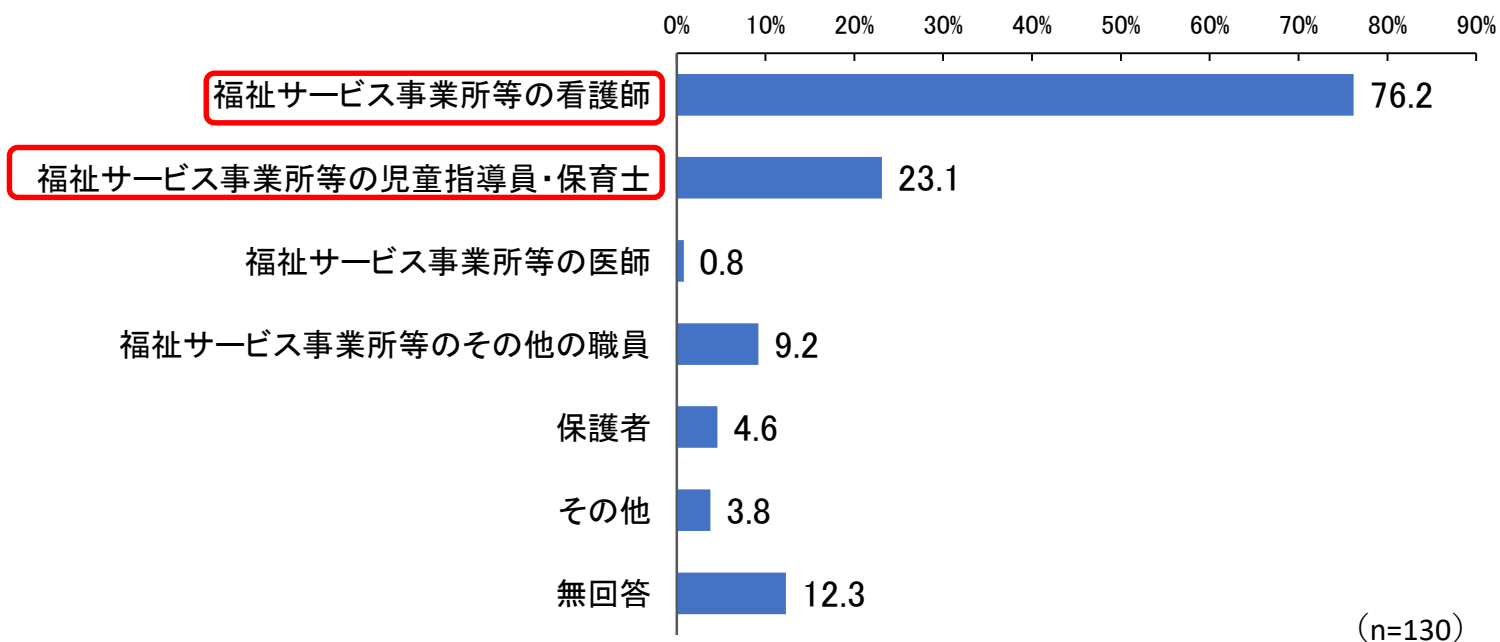
1週間に3～4回 27.8%

1週間に5～6回 23.6%

結果概要 5 福祉サービス事業所での医療的ケアの状況（2）

問26① 福祉サービス事業所において医療的ケアを行っている方

- 「福祉サービス事業所等の看護師」（76.2%）が最も多く、次いで「福祉サービス事業所等の児童指導員・保育士」（23.1%）となっている。



前回

福祉サービス事業所等の看護師 74.8%

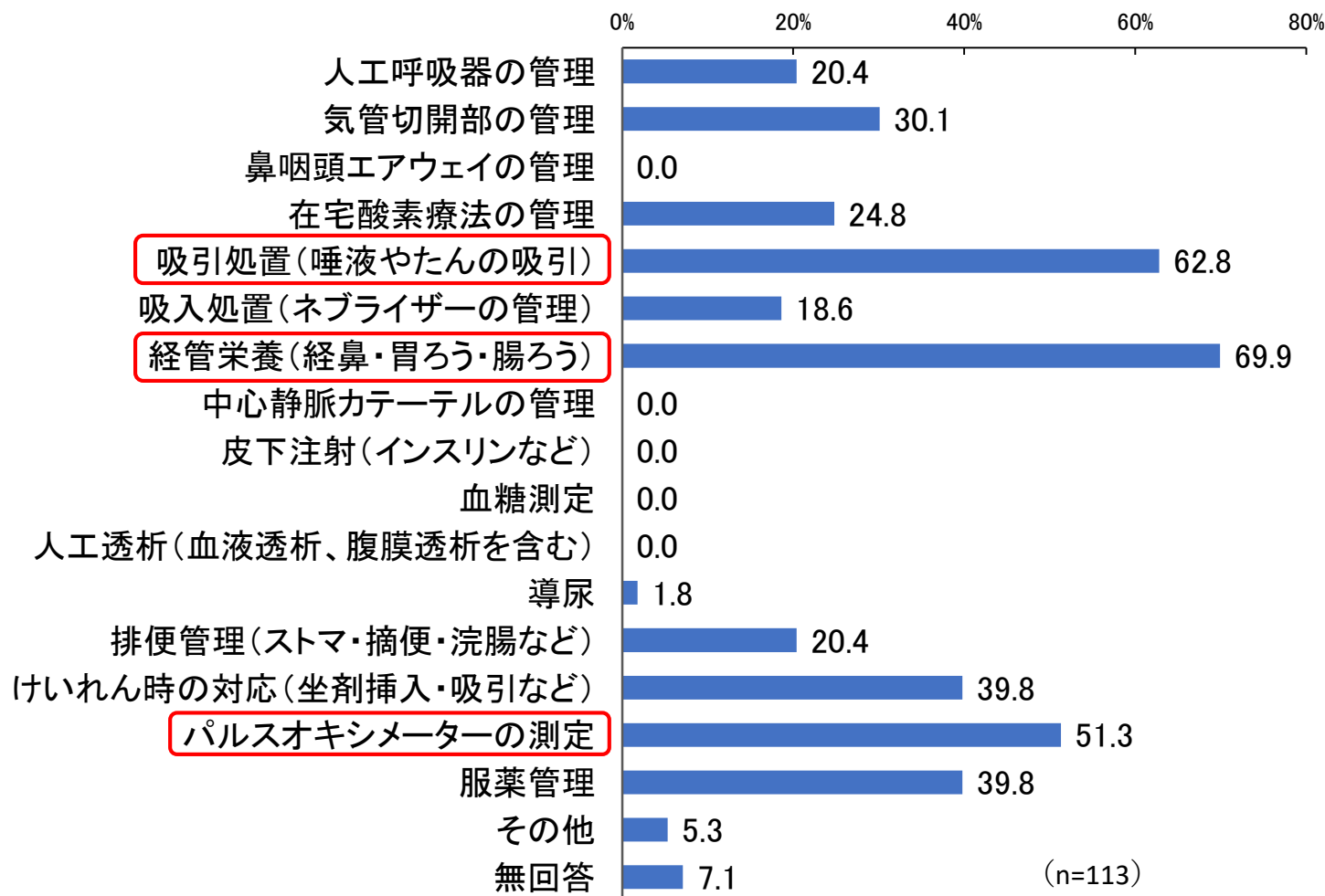
福祉サービス事業所等の児童指導員・保育士 24.3%

保護者 14.4%

結果概要 5 福祉サービス事業所での医療的ケアの状況 (3)

問26② 福祉サービス事業所において行われている医療的ケア

- 「経管栄養(経鼻・胃ろう・腸ろう)」(69.9%) が最も多く、次いで「吸引処置(唾液やたんの吸引)」(62.8%)、「パルスオキシメーター」(51.3%) となっている。

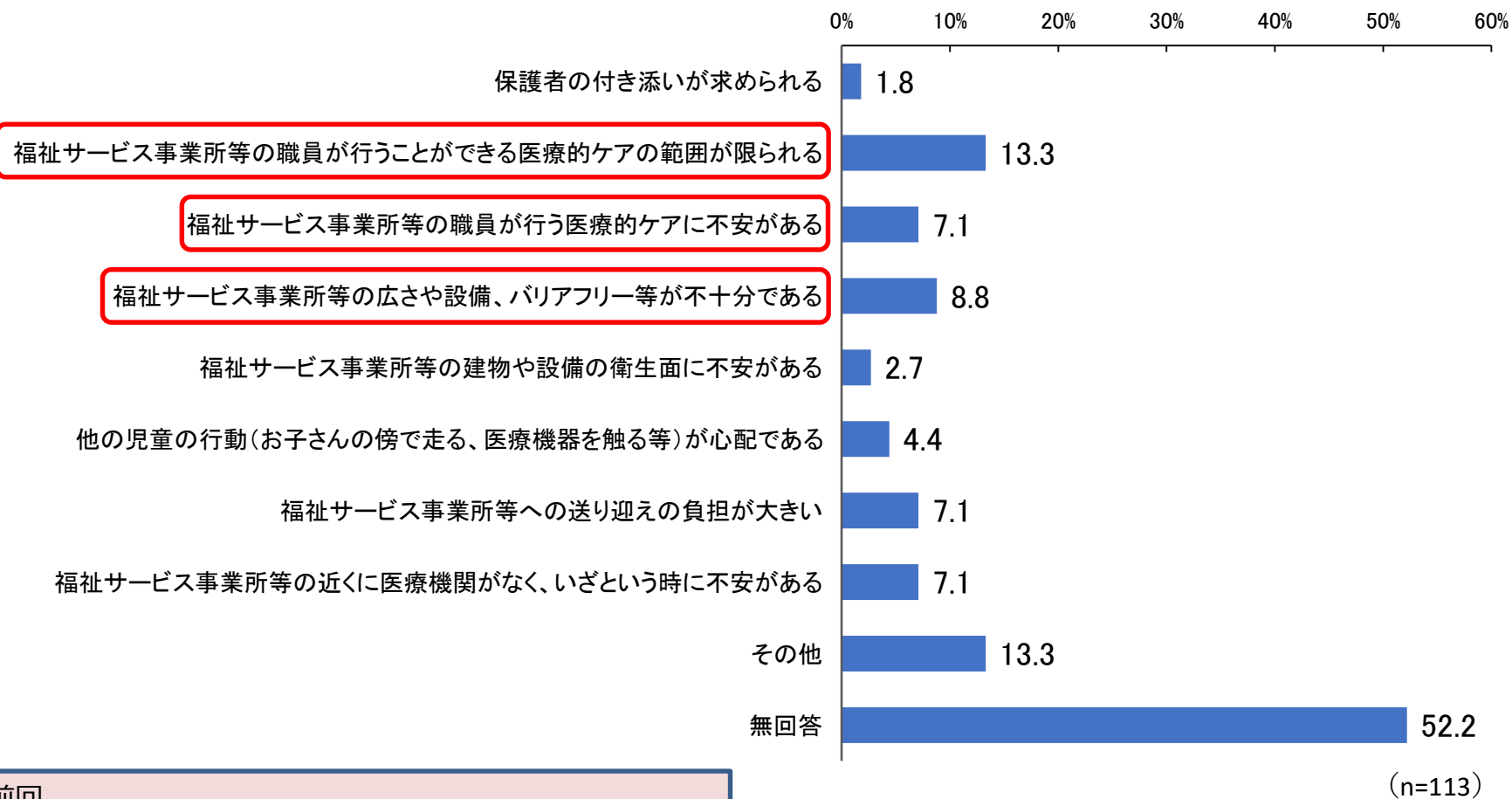


前回
吸引処置 68.0%
経管栄養 66.0%
服薬管理 49.5%

結果概要 5 福祉サービス事業所での医療的ケアの状況（4）

問26③ 福祉サービス事業所における医療的ケアに関して困っていることや心配なこと

- 「福祉サービス事業所等の職員が行うことができる医療的ケアの範囲が限られる」（13.3%）が最も多く、次いで「福祉サービス事業所等の広さや設備、バリアフリー等が不十分である」（8.8%）、「福祉サービス事業所等の職員が行う医療的ケアに不安がある」（7.1%）となっている。



前回

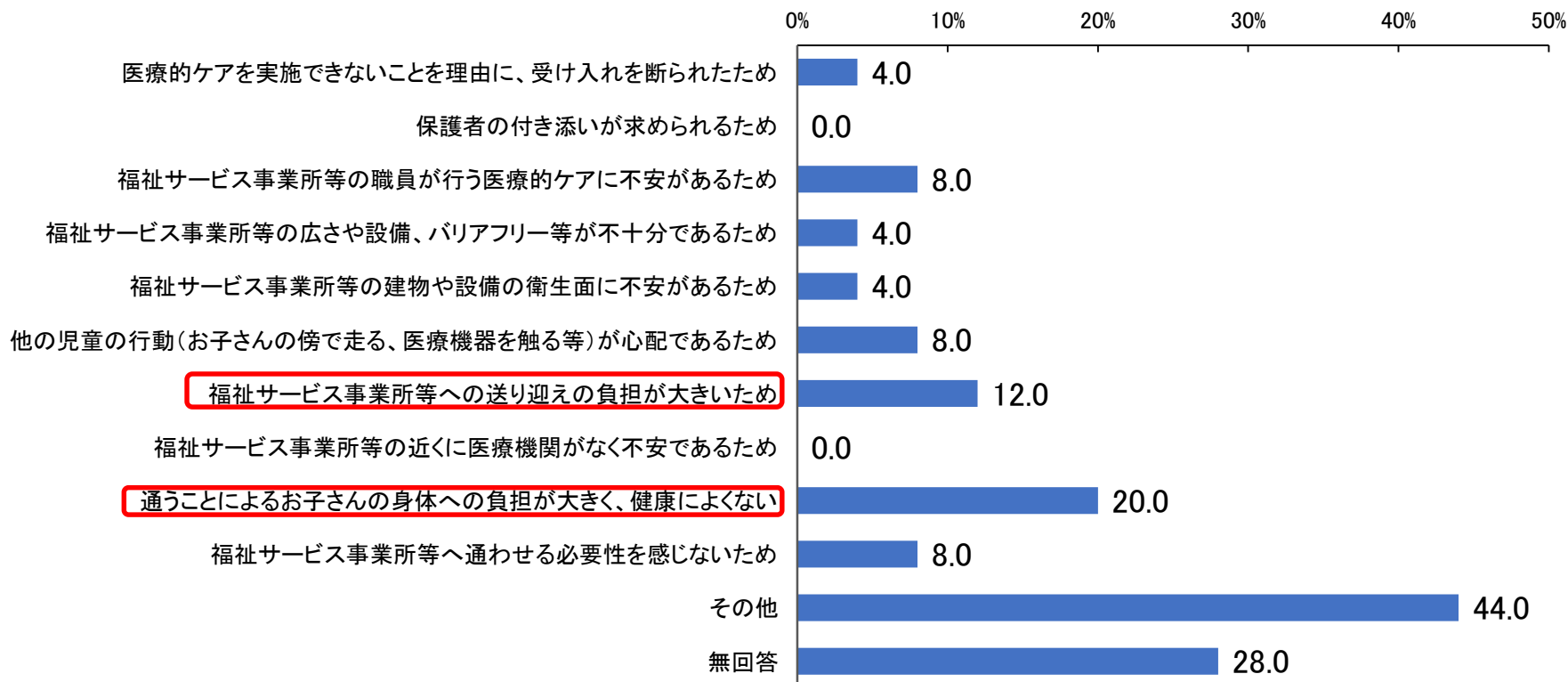
事業所が行うことができる医療的ケアの範囲が限られる 18.0%

他の児童の行動が心配 10.8%

結果概要 6 障がい福祉に関するサービス等の利用の状況 (1)

問27① お子さんが福祉サービス事業所等に通われていない理由

- 「通うことによるお子さんの身体への負担が大きく、健康によくない」(20.0%) が最も多く、次いで「福祉サービス事業所等への送り迎えの負担が大きい」(12.0%) となっている。



前回

通うことによる身体への負担 27.3%

必要性を感じない 18.2%

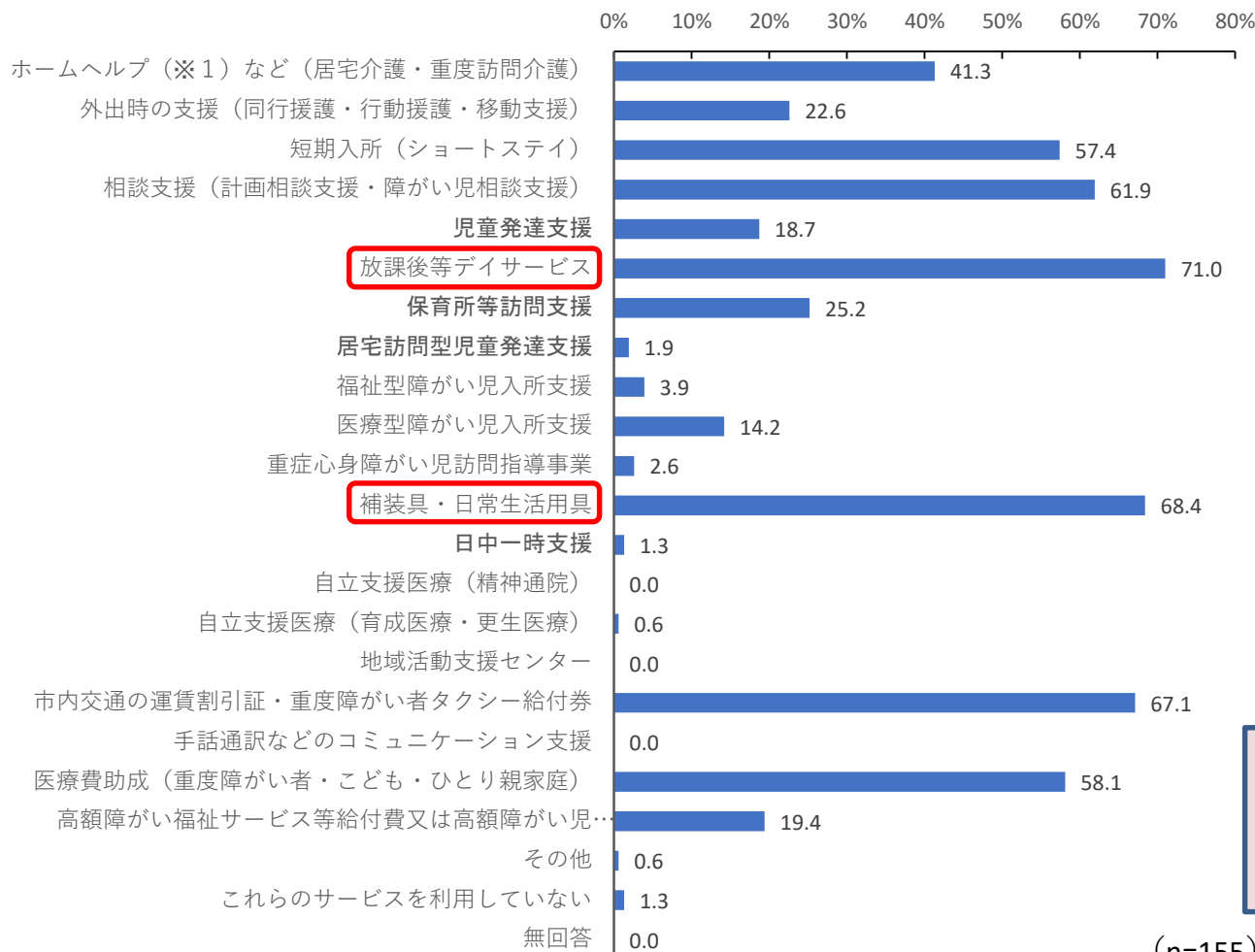
他の児童の行動が不安 15.2%

(n=25)

結果概要 6 障がい福祉に関するサービス等の利用の状況（2）

問28 現在利用している障がい福祉に関するサービス等

- 「放課後等デイサービス」（71.0%）が最も多く、次いで「補装具・日常生活用具」（68.4%）となっている。



（n=155）

前回

医療費助成 73.6%

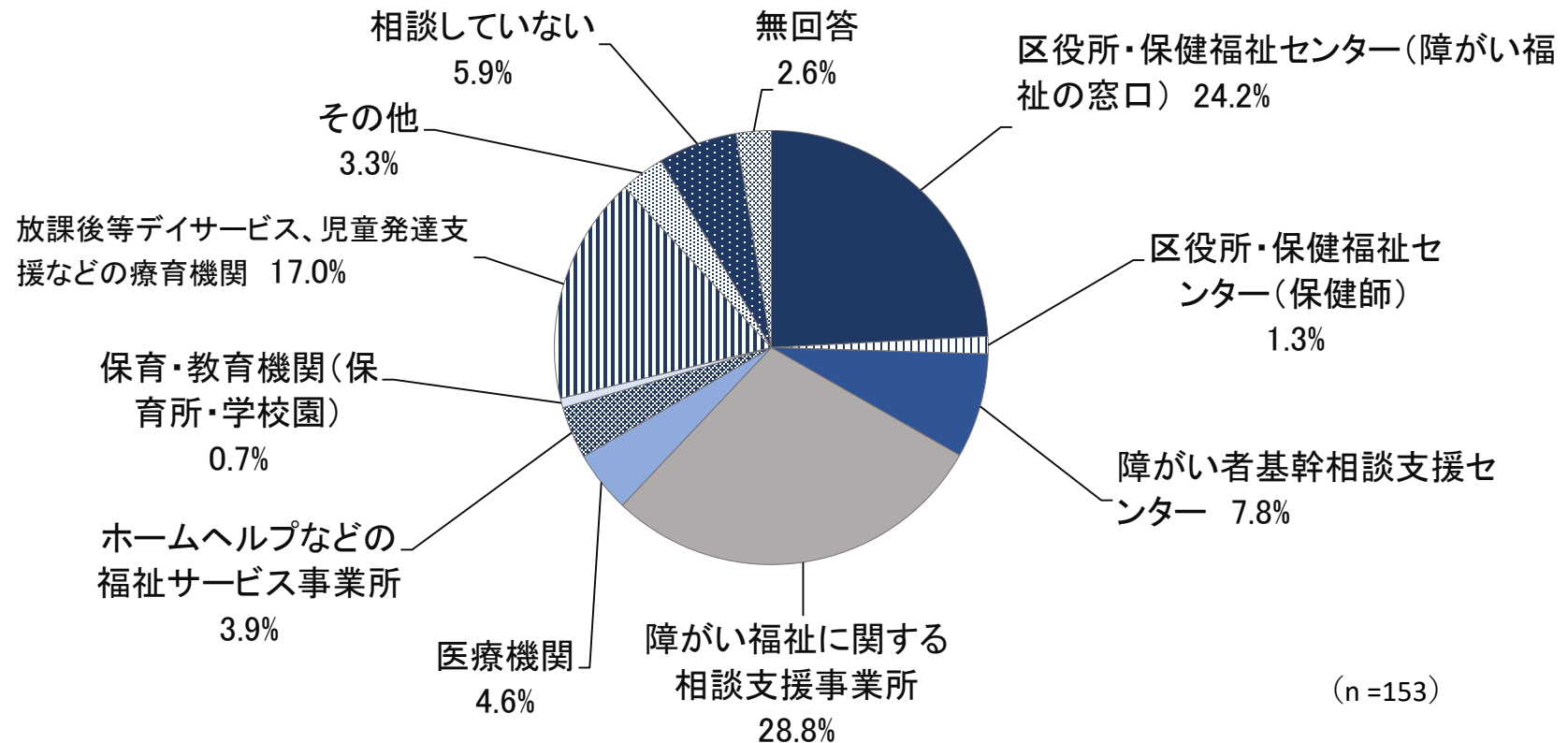
交通割引証・タクシー券 71.5%

放課後等デイサービス 68.1%

結果概要 6 障がい福祉に関するサービス等の利用の状況（3）

問29 障がい福祉に関するサービス等の利用にあたって相談する相手

- 「障がい福祉に関する相談支援事業所」（28.8%）が最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター(障がい福祉の窓口）」（24.2%）となっている。

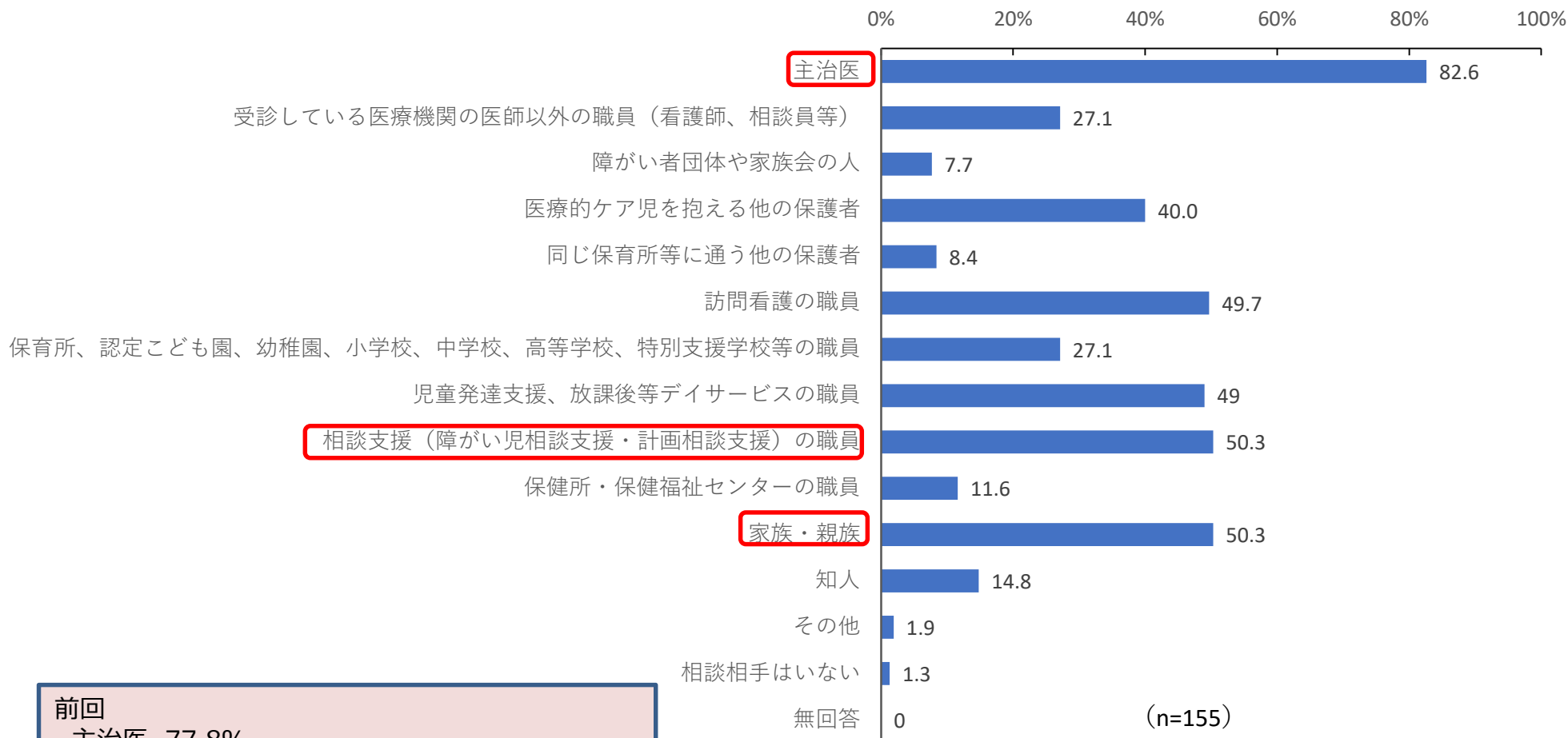


前回
区役所・保健福祉センター 35.9%
相談支援事業所 25.4%

結果概要 7 相談や情報入手の状況（1）

問33 病気や療養、生活に関すること等の保護者の相談相手

- 「主治医」（82.6%）が最も多く、次いで「相談支援(障がい児相談支援・計画相談支援)の職員」（50.3%）、「家族・親族」（50.3%）となっている。



前回

主治医 77.8%

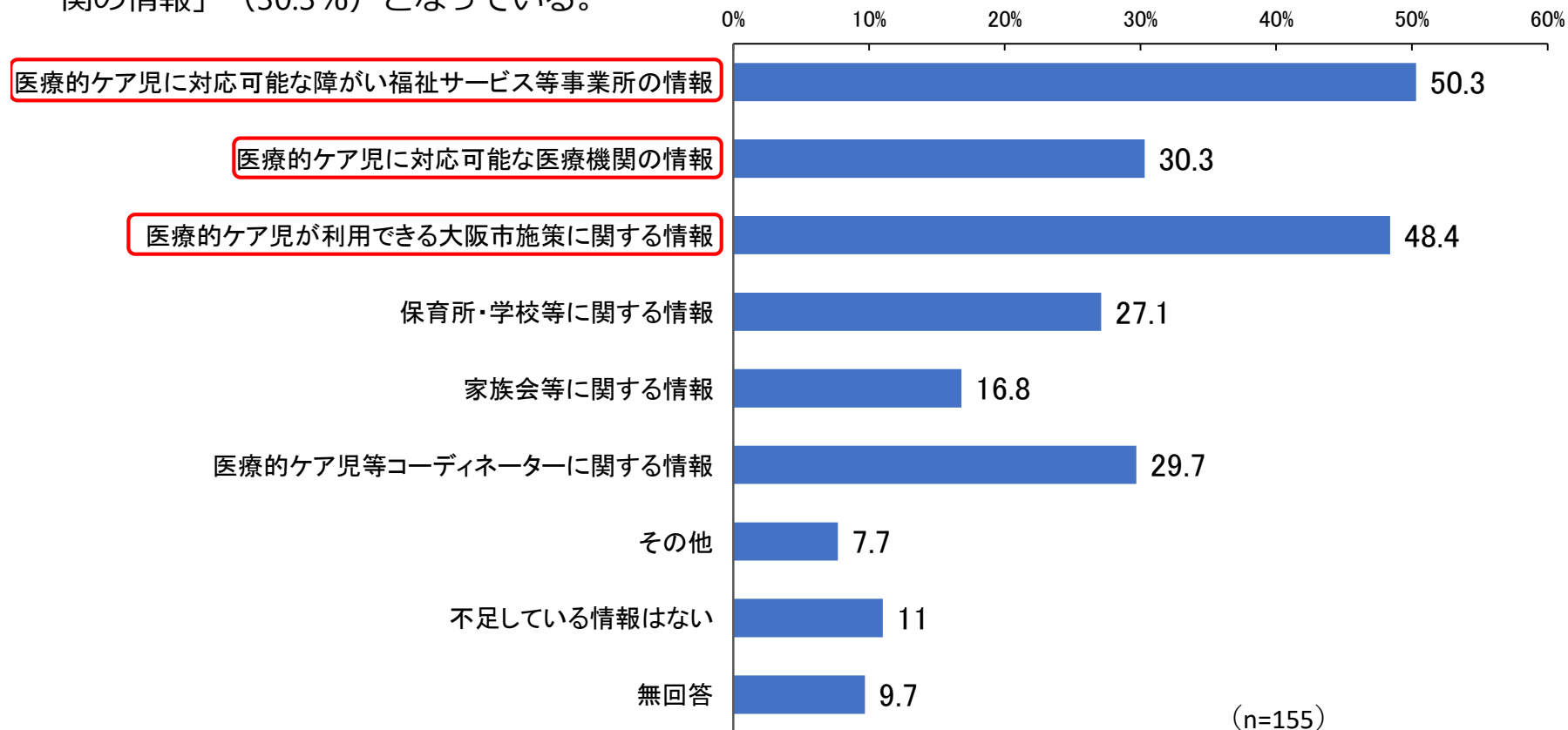
児童発達支援・放課後等デイサービスの職員 45.8%

他の保護者 45.1%

結果概要 7 相談や情報入手の状況 (2)

問34 保護者の方にとって、不足している情報

- 「医療的ケア児に対応可能な障がい福祉サービス等事業所の情報」(50.3%) が最も多く、次いで「医療的ケア児が利用できる大阪市施策に関する情報」(48.4%)、「医療的ケア児に対応可能な医療機関の情報」(30.3%) となっている。

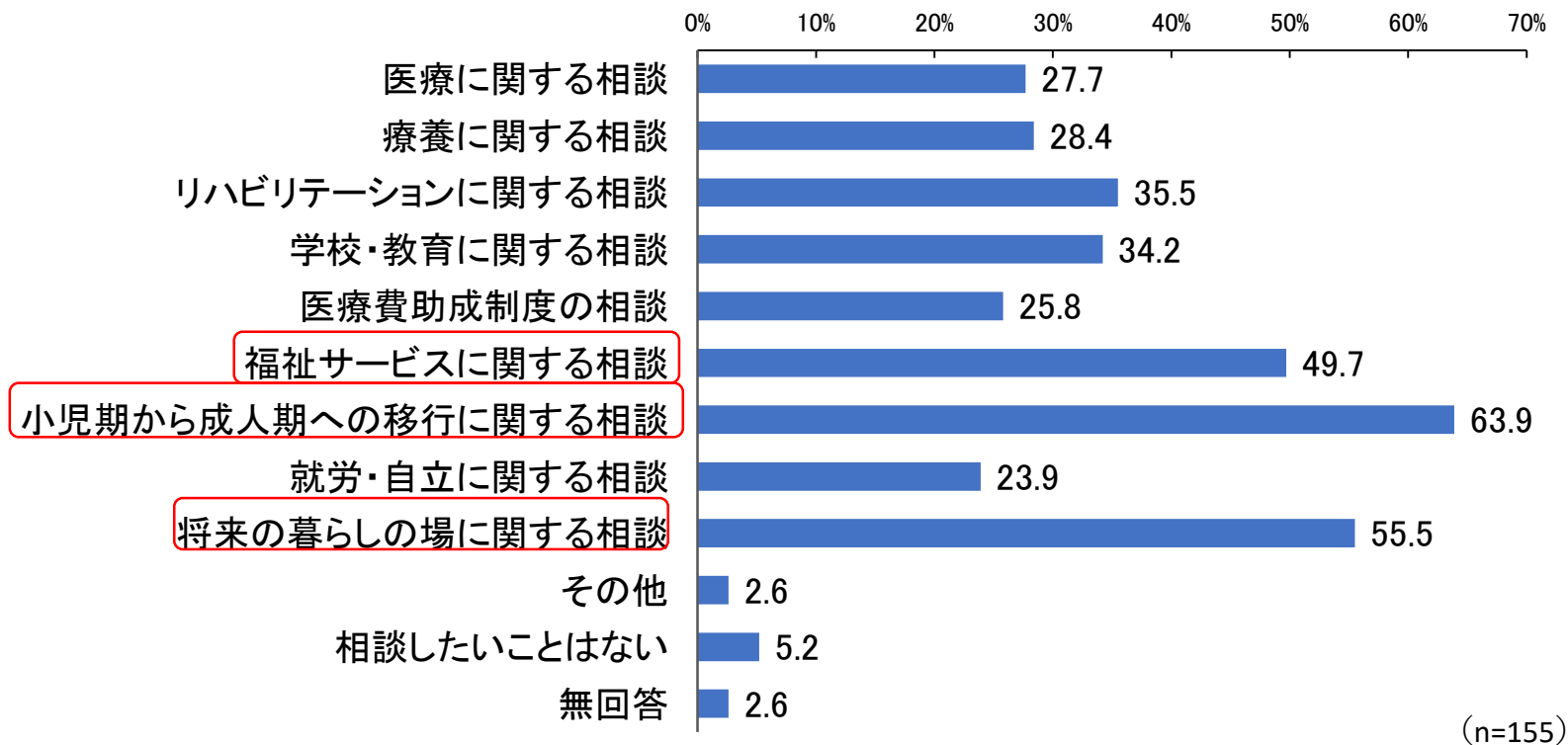


前回
なし

結果概要 7 相談や情報入手の状況 (3)

問35 今後、保護者の方が相談したいと思うこと

- 「小児期から成人期へ移行に関する相談」(63.9%) が最も多く、次いで「将来の暮らしの場に関する相談」(55.5%)、「福祉サービスに関する相談」(49.7%) となっている。

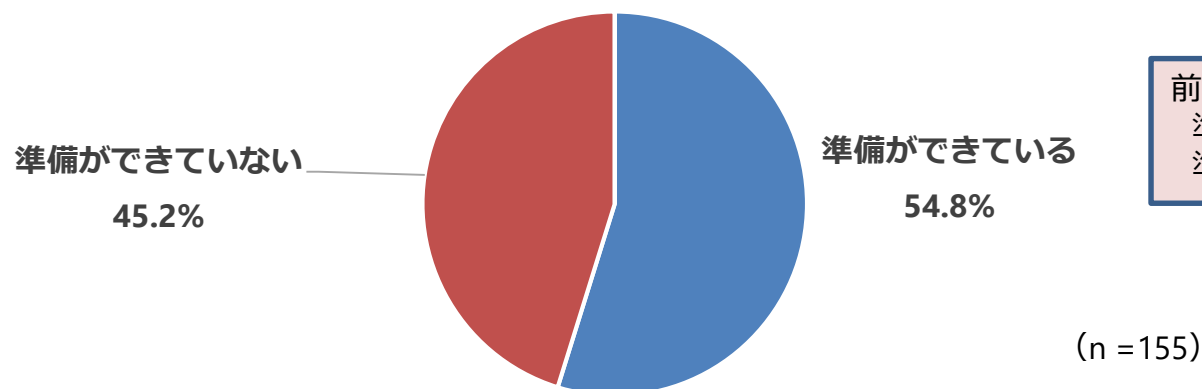


前回
なし

結果概要 8 障がい者施策全般に関すること (1)

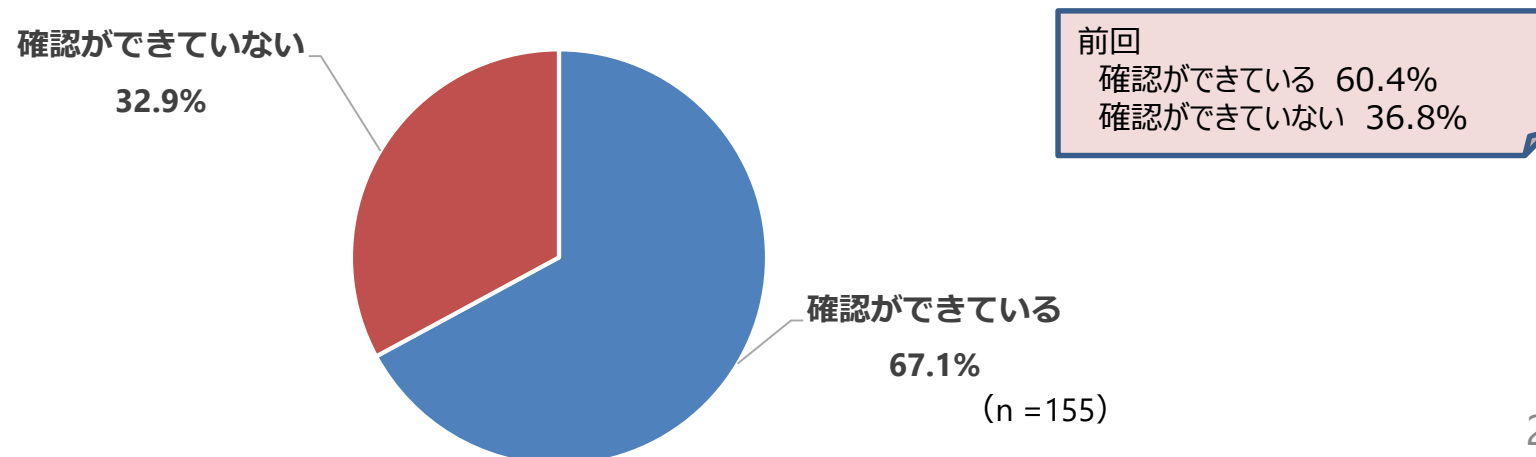
問39① 災害時の備え（水・食料品・日用品・医薬品医療機器など）

- 「準備ができている」（54.8%）と答えた方は5割程度となっている。



問40① 災害時の備え（避難所までの経路や避難方法の確認）

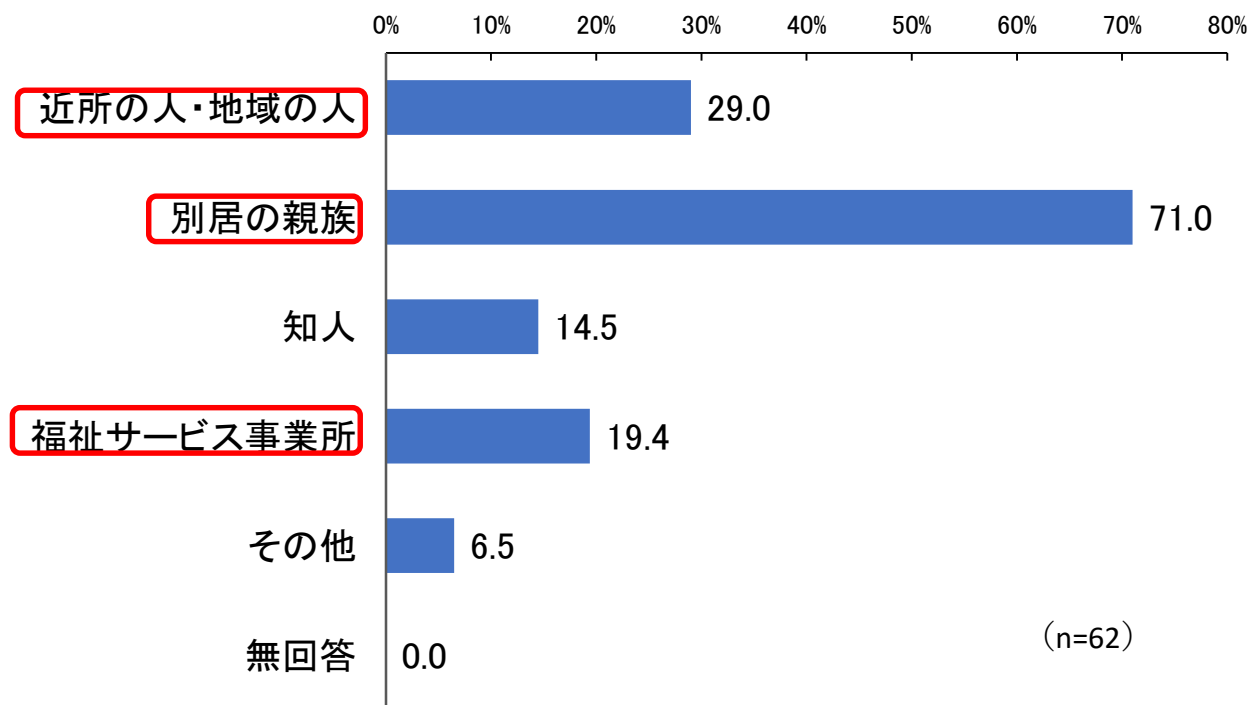
- 「確認ができている」（67.1%）と答えた方は6割程度となっている。



結果概要 8 障がい者施策全般に関すること (2)

問41② 災害時の備え（手助けを依頼している相手）

- 「別居の親族」（71.0%）が最も多く、次いで「近所の人・地域の人」（29.0%）、「福祉サービス事業所」（19.4%）となっている。



前回

別居の親族 71.9%

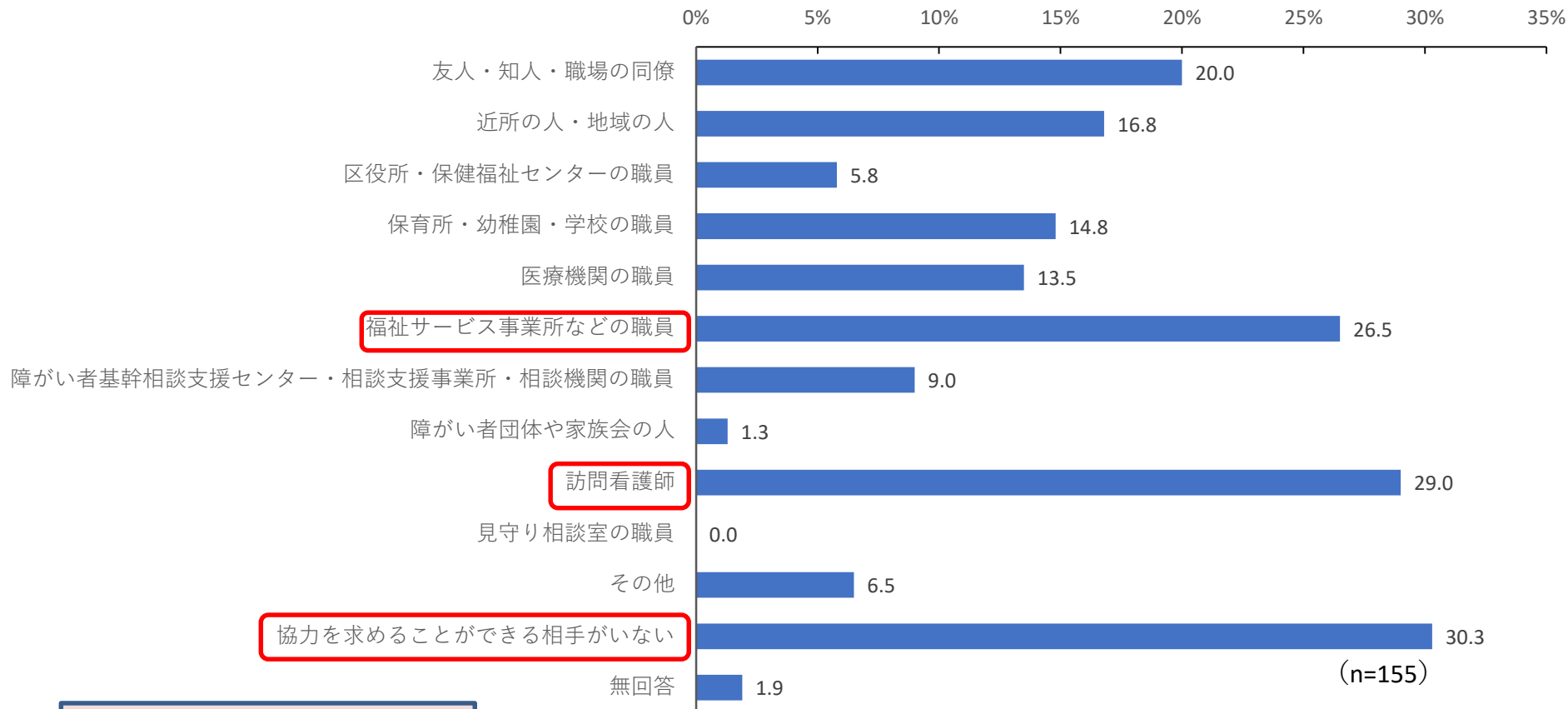
近所の人・地域の人 35.1%

福祉サービス事業所 28.1%

結果概要 8 障がい者施策全般に関すること (3)

問42 災害時の備え（家族や親族を除き、協力を求めることができる相手）

- 「協力を求めることができる相手がいない」（30.3%）と答えた方が最も多く、次いで「訪問看護師」（29.0%）、「福祉サービス事業所などの職員」（26.5%）となっている。



前回

相手がいない 30.3%

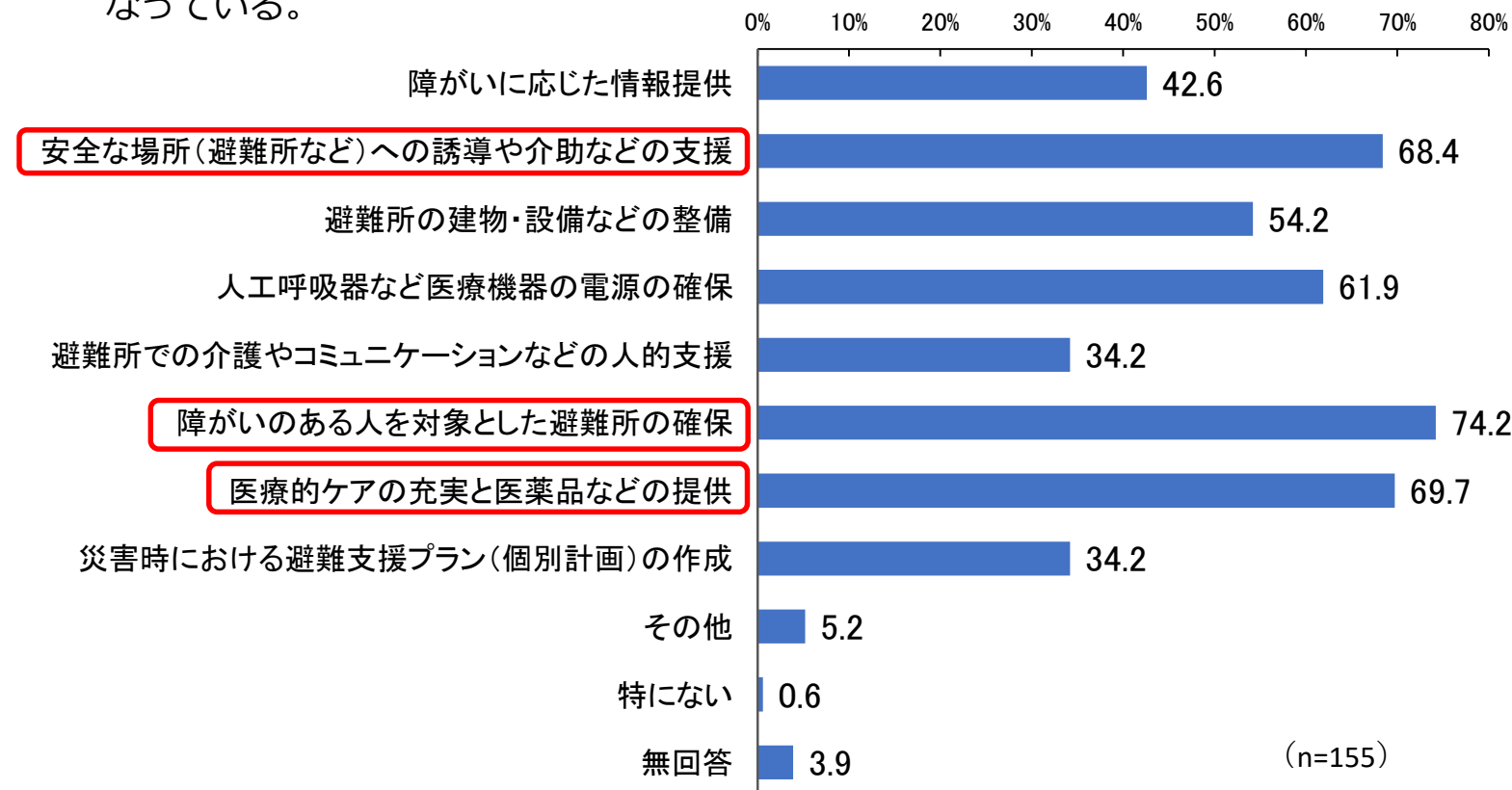
訪問看護師 27.8%

近所の人・地域の人 25.0%

結果概要 8 障がい者施策全般に関すること (4)

問43 災害時に必要と思うこと

- 「障がいのある人を対象とした避難所の確保」(74.2%) が最も多く、次いで「医療的ケアの充実と医薬品などの提供」(69.7%)、「安全な場所(避難所など)への誘導や介助などの支援」(68.4%) となっている。



前回

安全な場所への誘導や介助などの支援 68.1%
障がいのある人を対象とした避難所の確保 68.1%
医療的ケアの充実と医薬品などの提供 63.2%